

# 新春日部

発行  
日本共産党  
春日部市委員会  
春日部市粕壁  
東6丁目7-12  
電話748-5159  
FAX 748-5179

## 100ミリ安心プラン最終年度に

### 対象地域で床上浸水ゼロ目指す

台風やゲリラ豪雨などに対する浸水被害軽減に、国の登録事業である100ミリ安心プランが県内で初めて春日部市で登録となり今年度が最終年となります。

### 谷原貯留施設完成 大沼管渠工事中

平成20年8月28日の最大時間雨量89ミリの浸水被害(床上浸水10戸、床下浸水231戸)をもとに、整備終了後の被害想定を床上浸水ゼロ、床下浸水38戸まで減少させることをめざしています。

この間、県の会之堀川拡幅



対象区域は  
点線の中です。  
一部東武伊勢崎線東側  
も含まれています。

と新方川の拡幅と合わせ、市は会之堀川の改修や備後西ポンプ場の整備、中央地区貯留施設整備、安之堀川の拡幅・嵩上げなどが行なわれ、先ごろ谷原貯留施設も完成しました(現在浮揚防止対策の検討中、機能は使用可能)。

最終年度は大沼地区の管渠整備が進行中です。100ミリ安心プランも完了の見通しとなります、  
その他の浸水多発箇所に対する被害軽減対策について、計画の策定などを今後も求めてまいります。



## 「公共交通を考える会」市との話し合いに向けアンケート実施中！ご協力を

令和6年1月より開始した第4次春バス運行において、路線が3路線になり、広大な交通空白地域がうまれました。

市議団は、春日部市の公共交通について市民と考えようと学習会を開き意見交換を行いました。

参加者から、会をつくり学習しながら春日部市にどんな公共交通が必要かを考え市に求めていると、「公共交通を考える会準備会」が立ち上がりました。

準備会では、春日部市の春バスの現状や予算などを学び、公共交通が豊かな上尾市や鴻巣市に比

べ、公共交通対策への予算が少ないことや経費の赤字に対して国や県から補助金が出ている仕組みなどを学習しました。

### 市民の声を届けようとしてアンケートに取り組む

2025年1月「春バスの充実とデマンド交通の実現」をコンセプトに正式に会を発足し、代表を瀬戸井誠氏にお願いしました。

みなさんがどんなことに困っているのか声を集めることが大切とアンケートに取り組むとともに、デマンド交通について学習しました。

### 「デマンド交通とは」

住民の要望に応じて運行する交通システムのことで。主にタクシーやワゴン車を利用しています。利用の登録を行い、利用者が必要な時に予約をすると、同じ方向に向かう人の運行経路をオペレーターが作成し、途中で乗り合っていくという運行形態が多いようです。乗降場は自宅の場合や近くの場所を自治体が指定する場合があります。運行の責任は自治体にあります。予約や運行をタクシー会社等に委託する事例が増えています。

アンケートが集約されてきていますが、免許返納後の移動手段への不安や高齢になってからの通院、買い物への不便さを

訴える声が多く寄せられています。

今後は、交通手段には、民間路線バス、春バス、デマンド交通、春タク（タクシー代補助制度）などがありますが、春日部市にとってまたそれぞれの地域にとって、どのような手段が適しているのか等を学んでいきます。

6月には、専門的視点から、公共交通をどのように考え取り組んでいくのかについて、公共交通のことを専門的に取り上げている東京交通新聞社の方をお招きし学習会を開催します。

市との話し合いに向け何より大きな力は、市民の皆さんの声です。引き続きアンケートにご協力ください。